

1. ごみの処理方法

	処 理 ・ 資 源 化 方 法 等
可燃ごみ	・ 豊川市清掃工場で焼却、熔融処理 ・ 処理により発生するスラグ・メタルは資源化業者に引き渡し ・ 飛灰は、豊川市の焼却灰最終処分場に埋立処理
不燃ごみ	・ 豊川市資源化施設(不燃ごみ選別施設)において可燃物、資源物（金属分）、小型家電、選別残渣に分類 ・ 選別可燃物は、清掃工場で焼却、熔融処理 ・ 選別資源物、小型家電は、資源化業者に引き渡し ・ 選別残渣は、豊川市の最終処分場で埋立処理
粗大ごみ	・ 豊川市粗大ごみ受付センターで木類、鉄類、小型家電、布団類、羽毛布団に分類 ・ 木類、布団類は委託先で破碎を行った後、一部資源化され、残渣は清掃工場で焼却、熔融処理 ・ 鉄類及び小型家電は直接、資源化業者に引き渡し
危険ごみ	・ 豊川市処理センターに集められ品目ごとに分類し、処理及び資源化業者に引き渡し
資 源	・ 紙類、古着・タオル類は「豊川市資源化施設（古紙古布ストックヤード）」に保管し、資源化業者に引き渡し ・ びん類、金属・缶類は、「豊川市資源化施設（資源選別施設）」で、びん類は色別、金属・缶類は素材別に分類し、資源化業者に引き渡し ・ ペットボトル、白色トレイは、豊川市処理センターで選別した後、圧縮減容して、資源化業者に引き渡し
刈草・剪定枝	「豊川市資源化施設(刈草剪定枝破碎堆肥化施設)」でチップ化・堆肥化し、市民及び事業者に配布 ※チップは１０円/kg

2. ごみ排出量の実績

豊川市のごみ排出量は、表 2-1 に示すとおりです。

家庭系ごみ排出量は、図 2-1 に示すとおりであり、総排出量は、平成 27 年度から 29 年度にかけて減少していましたが、平成 30 年度に増加しています。

事業系ごみ排出量は、図 2-2 に示すとおりであり、総排出量は、平成 27 年度から 29 年度にかけて増加していましたが、平成 30 年度に減少しています。

表 2-1 ごみ排出量の実績

		(単位：t / 年)			
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
家庭系ごみ	可燃ごみ	37,631	37,091	36,956	37,154
	不燃ごみ	1,147	1,027	1,059	1,252
	危険ごみ	111	122	100	126
	資源	9,625	8,875	8,490	8,169
	粗大ごみ	2,619	2,494	2,535	2,744
	刈草・剪定枝	—	4	56	133
	有価物回収量	1,871	1,825	1,708	1,632
	計	53,004	51,438	50,904	51,210
事業系ごみ	可燃ごみ	16,885	17,378	17,193	15,475
	不燃ごみ	64	112	97	13
	粗大ごみ	44	50	41	32
	刈草・剪定枝	—	10	731	2,089
	計	16,993	17,550	18,062	17,609
総 計		69,997	68,988	68,966	68,819

注) 刈草・剪定枝は平成 29 年 3 月から処理開始。

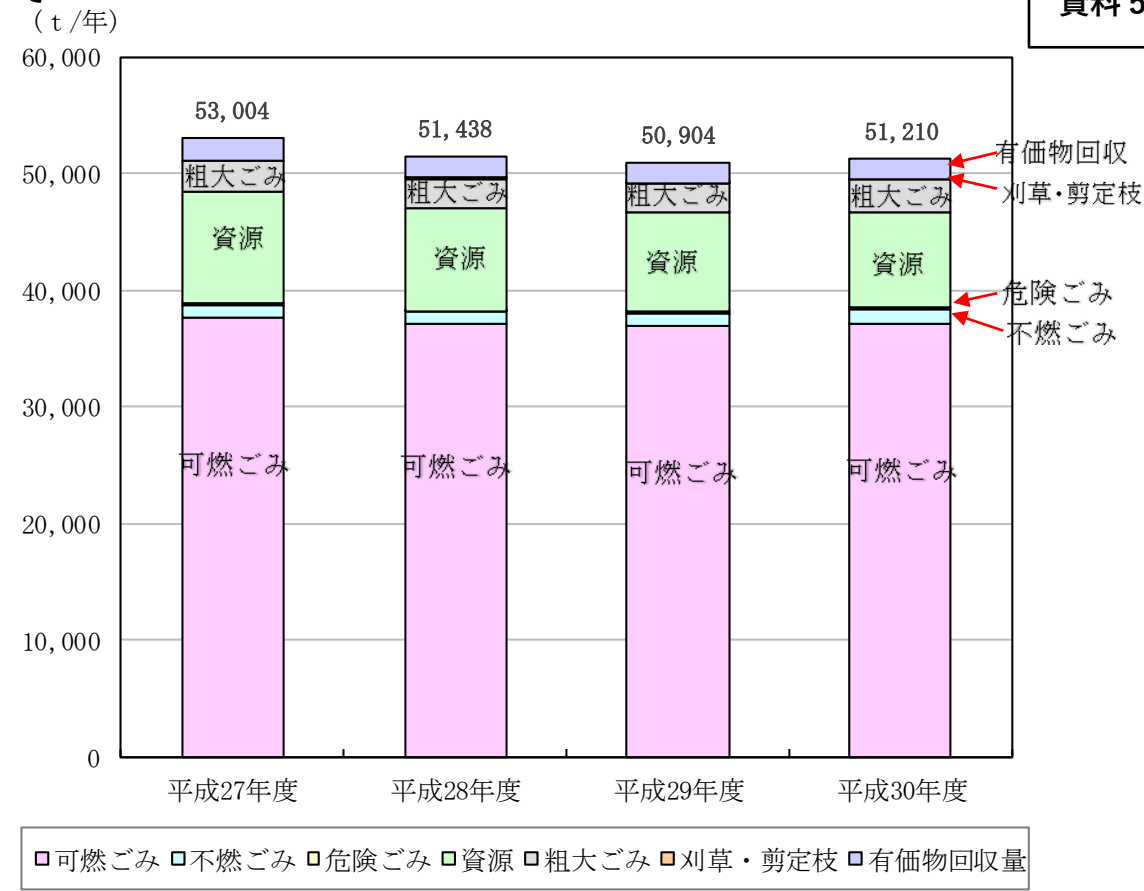


図 2-1 家庭系ごみ排出量の推移

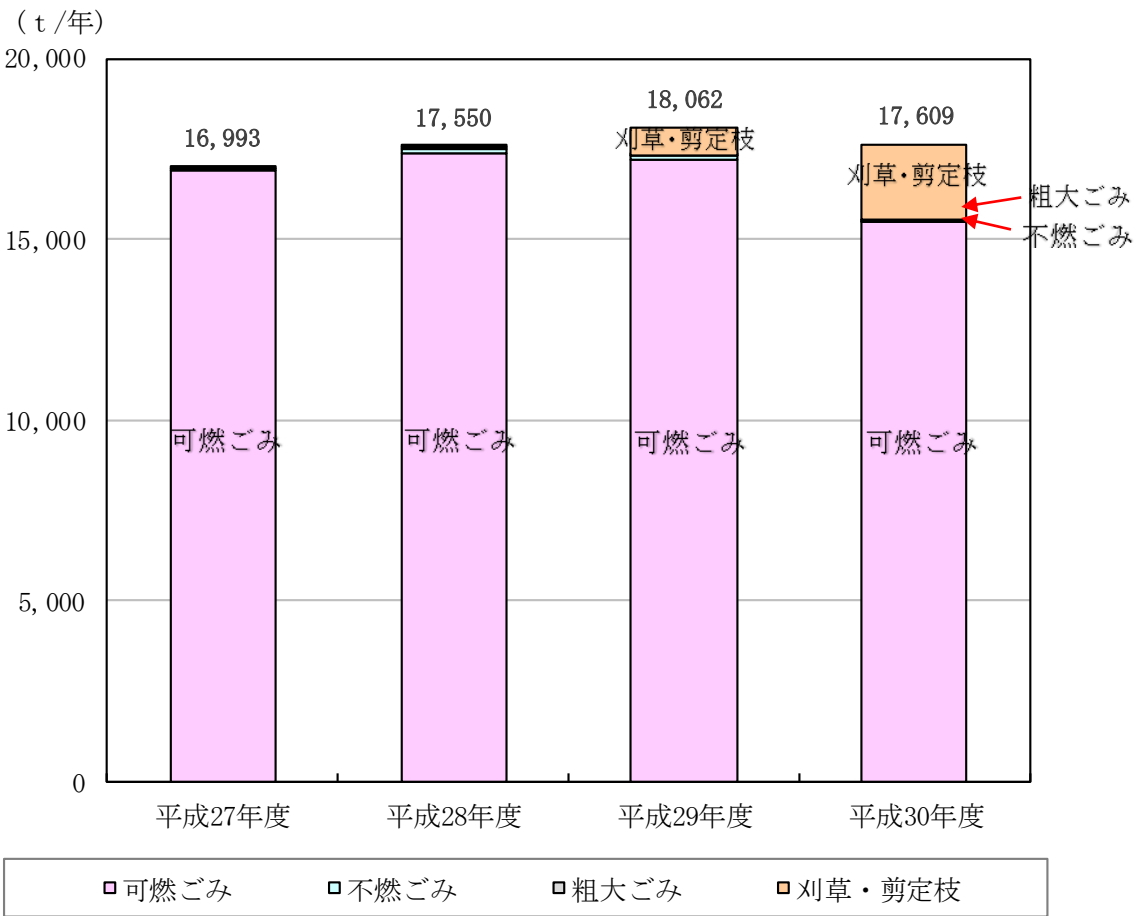


図 2-2 事業系ごみ排出量の推移

3. 課題の整理

現在のごみの排出状況や、現状のごみ処理システムを続けた場合に発生すると予想される課題を4つに分類し、整理します。

課題① ごみ排出量が県内市平均を上回っている。

家庭系ごみと事業系ごみを合わせた1人1日当たりごみ排出量（有価物回収量含む）の現状の数値は、減少傾向を示していますが、県内市平均を上回っている状況です。

平成29年度 1人1日当たりごみ排出量（有価物回収量含む）			
豊川市	1,016 g		
県内市平均	917 g *		*一般廃棄物処理実態調査の数値。

排出量削減への取り組みは、引き続き必須課題です。

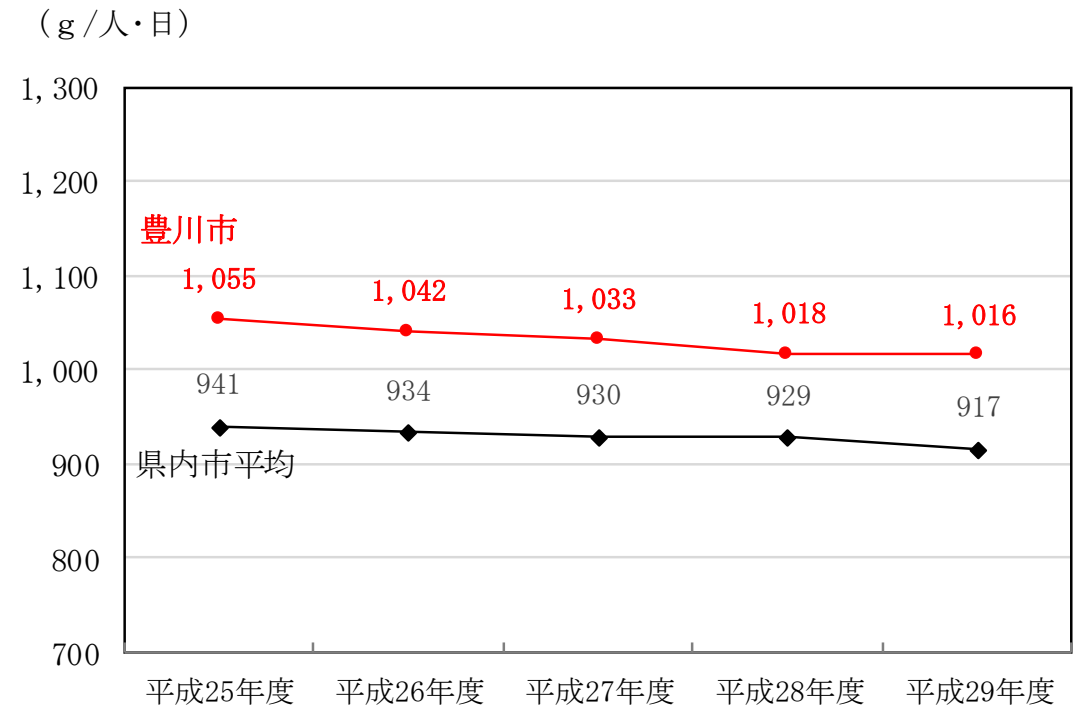


図3-1 1人1日当たりごみ排出量（有価物回収量含む）の推移

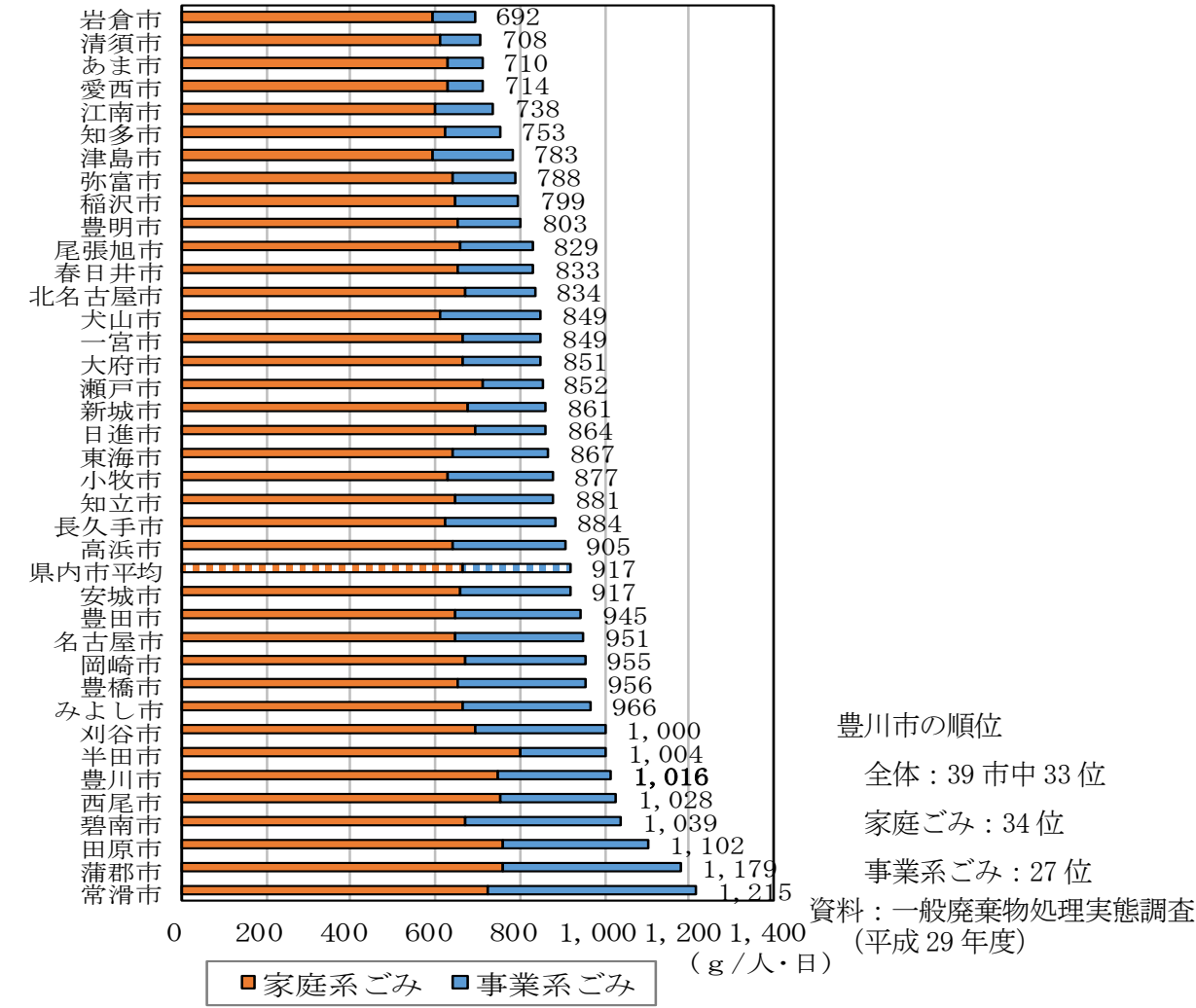


図3-2 県内市の1人1日当たりごみ排出量（有価物回収含む）

課題② 資源収集量が近年減少している。

1人1日当たり資源収集量の現状の数値は、減少傾向を示しています。

平成29年度 1人1日当たり資源収集量（有価物回収量含む）			
豊川市	150 g		
県内市平均	176 g *		*一般廃棄物処理実態調査の数値。

有価物回収量も減少の傾向が見られるなど、改善の必要があります。

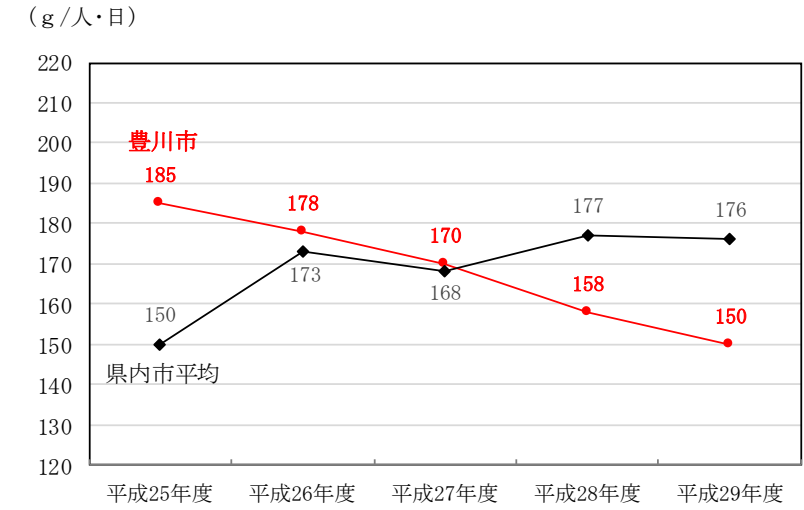


図3-3 1人1日当たり資源収集量（有価物回収量含む）の推移

課題③ 処理経費の削減が進んでいない。

ごみ処理経費（建設改良費除く）の現状は、増加傾向を示しています。内訳をみると、委託費を含め、中間処理費と最終処分費が増加しています。

1人当たり年間ごみ処理経費（建設改良費除く）		
平成25年度	10,105円	
平成29年度	11,115円	

さらなる経費削減の対策が必要です。

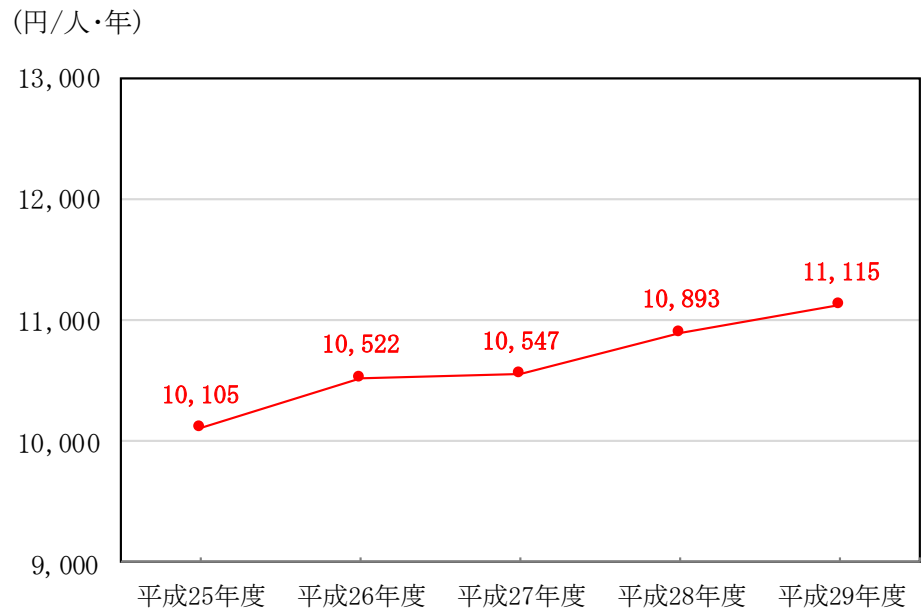


図 3-2 1人当たり年間ごみ処理経費の推移

課題④ 焼却施設の広域化への対応

本市の焼却施設は、処理機能を適切かつ経済的に維持するため、現在、延命化改良工事を行っています。
また、県のごみ焼却処理広域化計画を受け、「東三河ごみ焼却施設広域化計画」を策定しており、その中で、蒲郡市の焼却炉と本市のA棟（1・3号炉）を新設統合する計画があります。
市民が安心でき、安全で環境に配慮した適正な施設となるよう、東三河地域広域化ブロック構成市町村と連携を図りながら、広域化のあり方について引き続き検討していきます。

4. 現状推移でのごみ排出量の推計

新たな施策等を行わず、現状のまま推移した場合のごみ排出量を示します。
現状推移でのごみ排出量の推計は、家庭系ごみは、実績において平成30年度に増加しているものの、過去5年間に於いて総体的に減少傾向を示しており、将来も減少傾向を示すと予測されます。
事業系ごみの実績は、大半を占める可燃系ごみ（刈草・剪定枝含む）が、平成30年度に減少しているものの、過去5年間に於いて総体的に増加傾向を示しており、将来も増加傾向を示すと予測されます。
目標年次である令和11年度に、63,041 t/年と予測され、平成30年度実績の68,820 t/年より、人口減少の影響もあり、5,779 t/年の減少と予測されます。1人1日当たりでは、令和11年度に974 g/人・日と予測され、平成30年度実績に対し、38 g/人・日の減少と予測されます。
《人口は、令和11年度に177,383人と想定。平成30年度実績は186,318人であり、減少すると予測》
今後、引き続き資源循環型社会を目指し、さらなる減量化・資源化の推進を図っていきます。

表 4-1 現状推移によるごみ排出量の実績及び見通し

		実績	見 通 し	
		平成30年度	令和6年度	令和11年度
家庭系ごみ	t / 年	51,211	46,928	44,674
事業系ごみ	t / 年	17,609	18,294	18,367
計	t / 年	68,820	65,222	63,041
原単位	g / 人・日	1,012	991	974

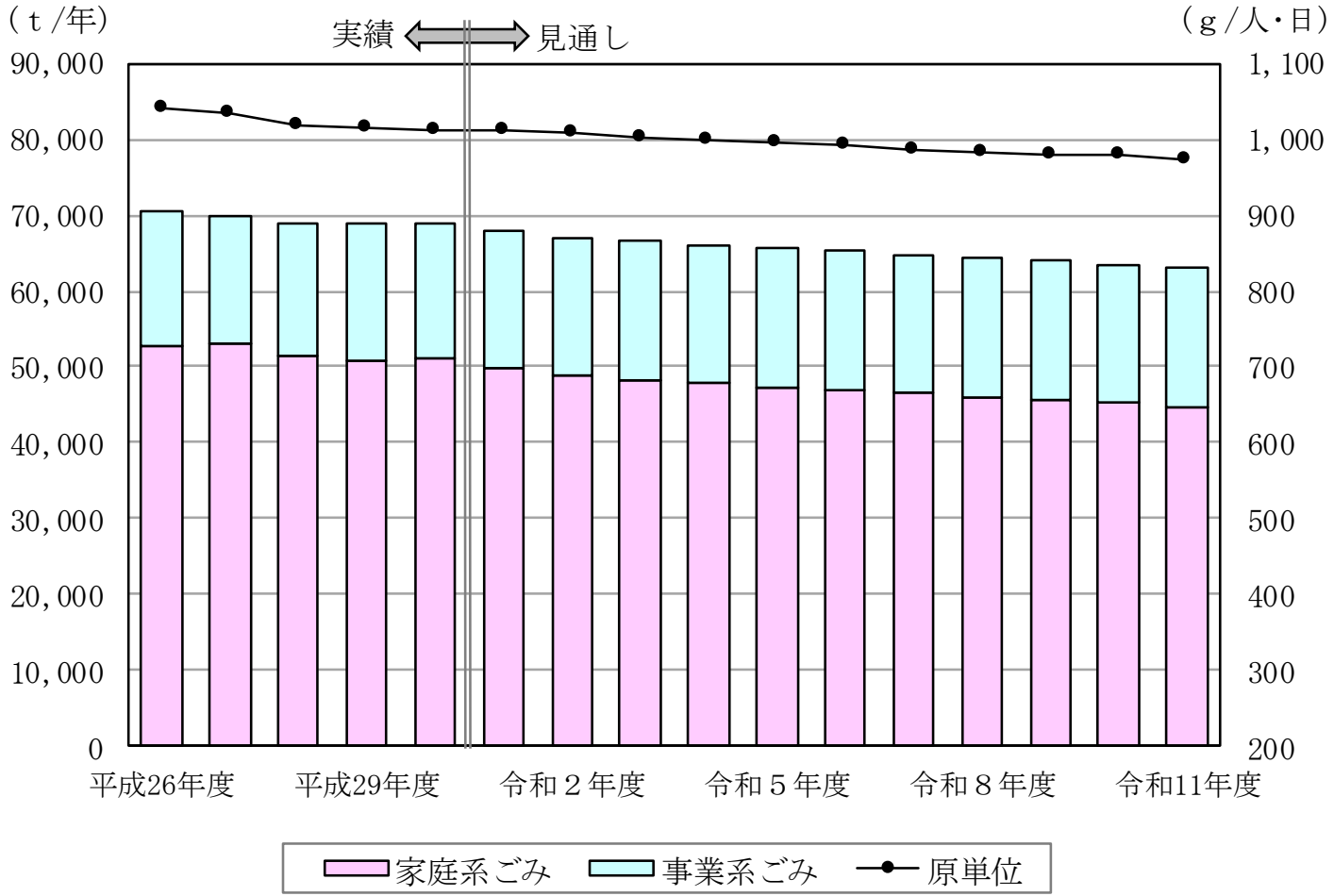


図 4-1 現状推移におけるごみ排出量の推移